

【年間テーマ 人材育成と抑制の適正と管理】

平成 27年 8月 22日提出

日付	平成27年 8月 8日(土)			
場所	博多セントラーザ		記録者名：河野順子	
出席者 (敬称略)	福西会南台病院 広崎大悟	若杉病院 古川 忍	北九州湯川病院 山田穂積	水城病院 内田明美
	丸山病院 松本真悟	新小倉病院 河野順子		
テーマ	各施設の困難事例の検討			
結論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち上がる行為が危険と考える事例                      対策 1. 歩行可能となってきた患者のリハビリの評価とゴールを明確にする。                      2. やみくもに転倒防止策を考えるのではなく、歩けることを前提にヘッドギアやヒップパンツ、膝当て等の使用を検討する。</li> <li>・経管栄養チューブ挿入中患者の自己抜去防止について                      対策 1. 1日中の抑制ではなく、注入回数や時間を調整する。                      2. ルートが患者の目に入らない工夫として、衣服の中を通す。                      3. 看護師の目の届く場所で、注入を行い多くに人と過ごし環境を考える。                      4. 食事ごとにチューブを入れ替える。・・・飲み込みが上達し嚥下力が良くなった事例がある。                      5. 抱き枕やタオルの活用。</li> <li>・胃瘻挿入中患者の自己抜去防止について                      対策 1. 胃瘻のチューブをボタン式へ変更する。                      2. 注入剤を半固形剤へ変更する。</li> <li>・不潔行為のある患者への対応                      対策 1. 睡眠リズムの調整や排便のコントロールを行い日中に排便があるようにする。</li> </ul>			



	<p>2. 紙オムツを布オムツに変え排便感覚を感じるようにする。</p> <p>3. 手を常に清潔にすることで、汚いものを手で触れたくないような感情を育てる。</p> <p>・人工呼吸器や気切の患者に対するミトンの使用</p> <p>対策 1. 使用時間を短縮していく努力をする。</p> <p>2. ミトンが本当に必要なのか？を考える。</p> <p>3. 患者の1日の行動を観察して、日中のレクリエーションの活用や食堂で過ごす時間を積極的に設ける。</p>
決定事項	<p>1. 抑制しない事に対する意義を考える機会を作り、スタッフへ動機づけを行い意識の変化を促していく。</p> <p>2. 患者の行動や生活状況を観察し、代替え案から考え始める。</p>
備考	
次回討論項目	・抑制防止の必要性について、行った家族へのアプローチやスタッフへの指導教育をもちよる。

抑制廃止とケアの質を高める会 事務局

E-メールアドレス [info@fukuokakenryo.jp](mailto:info@fukuokakenryo.jp)

(FAX.092-691-3961)

認知グループ

平成 年度 第 回 議事録

【年間テーマ】

平成 年 月 日提出

日付	平成 年 月 日 ( )		
場所	記録者名:		
出席者			
(敬称略)			

